

## 『栄葉集』



霊元院歌壇で活躍した烏丸家中興の祖、烏丸光栄（元禄2〈1689〉年～延享5〈1748〉年）の歌集『栄葉集』は、その孫烏丸光祖（延享3〈1746〉年～文化3〈1806〉年）の編集による。『栄葉集』の完本には、内閣文庫本・筑波大学本・大阪市立大学本が知られているが、別に部分的に書写される場合が多かった。東北大学狩野文庫蔵『詠草』は四季部のみ、『烏丸光栄歌集』は雑部のみ、大阪市立大学森文庫蔵『烏丸内府光栄公卿詠』は春部のみである。黒川文庫蔵の『栄葉集』は、着到和歌と奉納和歌を除いた百首和歌のみの書写という点で注目される。これは、着到和歌（内閣文庫蔵『院御所着到和歌』など）が別に書写されたことによると考えられるが、一方で書写者の関心を

示していよう。冒頭の「句題百首」（享保12〈1727〉年成）が、『白氏文集』の句を題にして詠んだ三条西実隆の「夏日詠百首和歌」（永正3〈1506〉年成）の題をそのまま題にしていることには、光栄の実隆への傾倒を理解することができるし、実隆以後、『白氏文集』句題は江戸後期まで見るべき作がないとされていたことを考えると、近世和歌史のブランクを埋める資料ともなる。

函架番号F-84。横刷毛目表紙。外題「栄葉集」。袋綴。1冊。縦23.4×横16.9。64丁。楮紙打紙。1面11行。「ノートルダム清心女子大学蔵書之印」「黒川真前蔵書」「黒川真道蔵書」の朱陽印。江戸中期写。